

科目区分	専門分野Ⅱ			科目番号	1411	曜日時間	
授業科目	小児看護学実習						
単位数	2 単位	時間	9 0 時間	開講時期	3年次	授業形態	臨地実習
担当教員	上原 由加里						
授業目的	小児期の生活に疾患や障害があたえる影響を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。						
授業の中核	すべての健康レベルの子どもの成熟過程を支える援助						
授業目標	小児看護学実習Ⅰ 1. 乳幼児期にある健康な小児の日常生活を理解できる。 2. 小児の成長発達を個別的にとらえることができる。 3. その児の成長発達段階に応じた日常生活の援助を学ぶ。 4. 小児の健康維持や事故防止について理解できる。 小児看護学実習Ⅱ 1. 小児外来の対象である児とその家族を理解できる。 2. 小児外来の看護活動の実際を理解できる。 3. 外来におけるチーム医療を理解できる。 小児看護学実習Ⅲ 1. 通所生活や環境を理解できる。 2. 発達過程に応じた養護と成長・発達を促す援助の実際について知る。 3. 人格を尊重した態度で対象と関わることができる。 4. 長期にわたる療育療養が家族生活にあたえる影響を学ぶ。 5. 児童発達支援における多職種連携が理解できる。 6. 家族を中心とした地域連携を学ぶ。						
授業の内容と方法	日	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	12日間	・乳幼児期にある健康な小児の日常生活を知る ・成長発達段階、小児の発達を個別的にとらえる ・発達段階に応じた日常生活援助を実施し振り返る ・健全な成長発達を促すための健康維持と事故防止について ・子どもや家族を支えるための援助や学んだことなどについてカンファレンスを行う	臨地実習	32	各担当教員	保育園	
		・小児外来に来院した児と家族への援助を見学する ・小児外来活動の実際を見学する ・外来におけるチーム医療、病棟との連携を申し送りなどで見学する ・発達段階や状況に応じたコミュニケーションを行う ・外来看護師の役割や学んだことなどカンファレンスをする		32		外来	
		・受け持ち児の疾患や障害の特徴を理解する ・児の健康障害の種類・程度、原因・病態、生活にあたえる影響を知る ・受け持ち児と家族の関わりを通して、成長発達を支える援助方法について学ぶ ・疾患や障害に応じたコミュニケーションを実施する ・自分の援助を振り返り、次に繋げる ・地域との連携、児や家族に関わるすべての職種との連携を見学する ・カンファレンスを通して実習メンバーの受け持ち児の看護内容について情報交換し理解を深める		24 ＋ 実践活動の場以外の実習 2時間		児童発達支援事業所	
終了後課題	3施設毎に終了後の学びのまとめレポート						
評価計画方法	臨地実習の日々の振り返りや援助内容・態度を評価表で評価						
テキスト参考図書	小児看護学で既習したすべてのテキスト						
実務歴有	看護師：病院勤務 11年 看護教員：学校勤務 5年						
講義への反映	病院勤務の経験を活かし、状況に即した実習を展開する						
備考	概論で実施したフィールドワークの資料を活用し小児の変化を捉える機会ともする。 学内実習（実践活動の場以外の実習）の詳細に関しては実習要項に記載あり。						